

一般研究用

# HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligand

表1. 製品情報

品番	品名	容量	保存	安定性
A308-01	HaloTag <sup>®</sup> STELLA Fluor <sup>™</sup> 650 Ligand	30 nmol	遮光-20°C保存	未開封で約1年
A308-02		60 nmol		

## 1. はじめに

### ■ HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligandについて

HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligandは、HaloTag<sup>®</sup>融合タンパク質と特異的に結合するChloroalkane部位を有したSTELLA Fluor<sup>™</sup> 650プローブです。細胞膜透過性があり、生細胞に発現するHaloTag<sup>®</sup>融合タンパク質の特異性の高い標識が容易に可能です。

## 2. HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligandによる生細胞染色プロトコル

### ■ 試薬の調整および細胞染色

- ① HaloTag<sup>®</sup>融合タンパク質を発現させた細胞をガラスボトムディッシュ上に用意します。
- ② HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligandを無水DMSO中に溶かし、1 mMのストック溶液とします。
- ③ HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligandの濃度が、1-2 μMとなるように培地に溶解し、染色液とします。
- ④ 細胞を染色液を入れ、5% CO<sub>2</sub>雰囲気下で37°Cで0.5時間インキュベートします。
- ⑤ 余剰色素を取り除くためにHBSS、もしくは培地で一回、細胞を洗浄します。

\* HaloTag<sup>®</sup> STELLA Fluor<sup>™</sup> 650 Ligand は洗浄作業がなくてもS/N比の良い観察が可能です。

- ⑥ HBSS、もしくは培地中に細胞を浸し、常法にてライブセルイメージングを行います。

### ■ 蛍光観察

励起波長は650 nm が適しています。用いるフィルタは、Cy5 (Nikon社) もしくはU-DM-CY5.5-3 (Olympus社) 等が使用できます。蛍光波長はおよそ660 nmをピークに検出されます。

### ■ 保存

色素は窒素封入、乾燥状態で冷蔵出荷しております。入荷後は遮光冷凍保存 (-20°C) してください。DMSO溶解後は使い切りを推奨します。